

田中銀之助歌曲集

川邊の逍遙

(同声合唱曲)

田中銀之助作曲

ササオ ビビサ シぶナ キねス ヨウサ イかビ ノベニ コはモ コナス ロをソ ヤのヌ リセラ ニてシ オながソ

ササオ ビビサ シぶナ キねス ヨウサ イかビ ノベニ コはモ コナス ロをソ ヤのヌ リセラ ニてシ

ワレビ ノシシ ホはナ トるツ リをヲ タおオ ドもモ リいイ クヤウ レレカ バばエ ナカソ ガすノ

オながソ ワレビ ノシシ ホはナ トるツ リをヲ タおオ ドもモ リいイ クヤウ レレカ バばエ

ルミヨ ルのノ ミとト ズばモ ハリヲ カとミ ワおズ ラクニ ザヘト レだエ ドてバ ハさコ ルさタ

ナカソ ガすノ ルのノ ミとト ズばモ ハリヲ カとミ ワおズ ラクニ ザヘト レだエ ドてバ

ケヤウ キクル ムもモ カのノ シはハ ヌたタ ネだダ ニココ ソのノ ウおオ カがガ プわワ

ハさコ ケヤウ キクル ムもモ カのノ シはハ ヌたタ ネだダ ニココ ソのノ ウおオ カがガ プわワ

川邊の逍遙

(混声合唱曲)

田中銀之助作曲

ササオ ビビサ シぶナ キねス ヨウサ イかビ ノベニ コはモ コナス ロをソ ヤのヌ リセラ ニてシ オながソ

ササオ ビビサ シぶナ キねス ヨウサ イかビ ノベニ コはモ コナス ロをソ ヤのヌ リセラ ニてシ

ワレビ ノシシ ホはナ トるツ リをヲ タおオ ドもモ リいイ クヤウ レレカ バばエ ナカソ ガすノ

オながソ ワレビ ノシシ ホはナ トるツ リをヲ タおオ ドもモ リいイ クヤウ レレカ バばエ

ルミヨ ルのノ ミとト ズばモ ハリヲ カとミ ワおズ ラクニ ザヘト レだエ ドてバ ハさコ ルさタ

ナカソ ガすノ ルのノ ミとト ズばモ ハリヲ カとミ ワおズ ラクニ ザヘト レだエ ドてバ

ケヤウ キクル ムもモ カのノ シはハ ヌたタ ネだダ ニココ ソのノ ウおオ カがガ プわワ

ハさコ ケヤウ キクル ムもモ カのノ シはハ ヌたタ ネだダ ニココ ソのノ ウおオ カがガ プわワ

鳴の声 (千鳥の曲に合せて歌う)

1. 鳴の鳴く音を 日暮に聞けば
枯れたすゝきに 小夜時雨
2. 沢の月かけ 一ゆりゆれて
鳴の鳴く音に 秋の風

夕の月を恋ふる如く

北村久雄 作詩

1. 磯うつ波は やさしくも
夕の月を 恋ふる如く
恋ふる如き その歌声
静けき空に 消えて行く
2. 暮ゆく舟は 淋しくも
夕の月を 恋ふる如く
恋ふる如き その間帆の影
はるけき沖に 眠り行く

海国の民

大桑いよ子 作詩

1. 果しもしら波 霞にあけて
朝日こ輝く 美しの海を
行けよや行けよ 海国の民
大船小舟 装ひなれり
行けよ行けよ 海国の民
2. 紅にほへる はた雲なびき
夕汐みち来る 面白き海を
行けよや行けよ 海国の民
つきせぬ室 汝をぞ待てる
行けよ行けよ 海国の民
3. 荒吹く風には 空をも浸す
波鼓打つ 勇ましき海を

行けよや行けよ 海国の民
富は充ちたり 彼方の陸に
行けよ行けよ 海国の民

楽しく遊べ

松岸寛一 作詩

1. 遊べや たのしく 楽しく あそべ
こゝろも 安けく つとめは おへぬ
あれ聞け 小鳥の さへづる 声を
あれ見よ 小花の さゆらぐ えまひ
うたへや 遊べや 遊べや うたへ
2. 遊べや たのしく 楽しく あそべ
こゝろも すがしく つとめは おへぬ
あれ聞け のどかに かぜさゝやくを
あれ見よ 小蝶の はねひらひらと
うたへや 遊べや 遊べや うたへ
3. 遊べや たのしく 楽しく あそべ
ちからを かざりに つとめし のちは
さながら こゝろも はれゆく ものを
そゞろに こゝろも うきたつ ものを
うたへや 遊べや あそべや うたへ

川辺の逍遙

犬童球溪 作詩

1. 淋しき宵の 心やりに
小川のほとり たどり来れば
流るゝ水は 変らざれば
遙けき昔 胸にぞうかぶ
2. 笹舟うかべ 花をのせて
流し、春を 思ひやれば
霞のとばり 遠くへだて
さゝやくものは たゞこの小川

3. 幼なすきびに 裳裾ぬらし
遊びし夏を おもひうかべ
其の世の友を 水にとへば
こたふるものは たゞこの小川

墓前に立ちて

松岸寛一 作詩

1. きふのうつゝ 今日夢
涙を誘ふ 墓の前
松吹く風さへ 身にしみて
払ひもかねし 草の露
2. 残んの光 あとゝめて
淋しく暮るゝ 夕まぐれ
手向の草花 枯れしほみ
思はず落す 一しづく
3. すがれの虫の 声ほそく
こけむす石の かげ寒く
哀れやはかなき 世の様の
あまりに悲し 墓の前

物語 (イソップ物語) 松岸寛一 作詩

- 甲. 橋の上を通る犬
水に写った我が姿
それを知らずに吠えた時
くはへた肉がふと落ちた
- 合唱. さてもさても愚者
あまり慾の深い故
思ひがけぬ損をした
おかしおかし犬の慾
- 乙. ほんとうにうまそうなぶだうだな
けれども高く取られない

ひとりで狐はつぶやいた
あんなぶだうはうまくない

合唱. さてもさても負け惜しみ
ほしい心をおさへつゝ
とれぬぶだうをわるく言ふ
おかしおかしその狐

丙. 飲むにとゞかぬかめの水
石を何度もなげ入れた
水は溢れて飲みしだい
これで鳥もやすまった

合唱. さてもさても考へた
あんな黒いあの鳥が
よくも続いたこんきよさ
おかしおかしあの鳥

我君我国

山口重樹 作詩

1. 天津日の神の 御子のわが君
尊しかしこし あふげもろ人
君は秋津神 千五百秋の
瑞穂の国をば しらす大君
2. 萬の国にも 君はおはせど
わが如たふとき 君はおはせず
御神の伝へし すめら御国を
久にしろしめす かしこき大君
3. 国つ神たちの 建てし我が国
洵にうつくし 守れもろ人
国の礎は ときはかきはに
おすともゆるがぬ 堅き御国ぞ
4. 四方に位する 国は多けれど
わがごと尊き 国はあらしな
神代のむかしべ 神のつくりて
御孫につたへし 美し真秀国
たふと